

愛南町だからできること

いなかで見つけるたのしみ グリーン・ツーリズム

先般えひめGT県域ネットワーク研修会が愛南町で開催された。この研修会は、愛媛県内のGT実践者に愛南の活動について評価をしていただき、これからの活動に役立つものである。

愛南GTは、平成18年に協議会を設立し活動している。それから5年、受け入れ人数は徐々に増加傾向にはあるが、まだまだ認知度が低く、なかなか浸透していない現状である。

愛南らしい資源

宇和島方面から愛南町に入るとまず青い海が眼に入る。夏場は、日本の渚100選にも選ばれた須ノ川海岸で群生するサンゴが見られるスキューバダイビングを楽しむ若者の姿も多い。少し沖には、真珠養殖の

イカダが広がり、養殖が盛んな姿がうかがわれる。高知県の宿毛に繋がる湾では、ブリ、鯛の養殖も盛んに行なわれ冬場になると寒ブリの出荷で賑わう。また、愛南の中心部を流れる僧都川沿いを上っていくと、静かな田園が広がりその山手では、特産の愛南ゴールド(河内晩柑)の柑橘畑やいなかではどこにでもある段々畑の光景があり、付近の清流では、鮎やアマゴも放流され川釣りを楽しむ子供たちの姿も見かける。

一度来たらやみつき?

今年も、金沢大学の学生達が楽しんだスキューバダイビング、女性に人気の真珠や貝殻を使ったアクセサリー作り、子供たちが歓声をあげたブリの餌やり体験で愛南の海を堪能してもらった。

収穫体験では、体験部会長の孝野さんが家族みんなで提供する芋やなす、柑橘などの収穫をはじめ、季節によって体験部会員



愛南の朝日



愛南グリーン・ツーリズム
推進協議会
農業支援センター所長

曾我部 盛男



TV取材を受ける魚料理体験



須ノ川海岸のシュノーケル体験



家族全員で収穫体験を提供する孝野農園の畑



県域ネットワークで手作り交流会

が様々な体験を提供している。会員は現在18会員で構成されているが、愛南GTの一番の売りはやはり農家・漁家民宿である。地元で取れる豊富な野菜や魚を腹いっぱい満喫できる農家・漁家民宿は一度宿泊した人たちは必ずリピーターとなって二度三度と利用されている。愛南GT推進協議会の会長を務める漁家民宿「海人」の前田さんは、宿泊者には必ず食べたい魚料理を事前にも伺い、食べきれないほどの料理を提供する。また、民宿部会長の「花ごよみ」の松本さんは、時ちゃんの愛称で夜遅くまで賑やか（お客さんはちよっと迷惑？）に接待する。その他に現在、漁家民宿1軒「大内浦」、農家民宿3軒「風山の里」「西の家」「かじか」が受け入れを行なっているが、とにかく皆仲良く元気がいい。食材も魚と野菜・漬物など皆が交換し合いながら調理する。

自分たちが一番楽しめる受け入れを

今年度から、協議会も民宿部会と体験部会を整備し組織の強化を図った。部会で情報を交換すると同時に、部会間でも連携を取り合い体験と宿泊を一体化した受け入れも力を入れている。

GTは営利を目的としているわけでもなくボランティアでもない。幸い愛南の会員はそれぞれの仕事で生計を立てており、GTは楽しみとして取り組んでいる。交流の中でお客様も楽しんでいただくが、それ以上に受け入れる会員が楽しめることが一番必要だと思われる。

このような現状を、えひめGT県域ネットワーク研修会で評価をしていただくことは、我々にとっては不安でもあり、またこれからの参考とする期待でもあった。海・

里山各コースに分かれての体験、民宿での運営評価を参加者の皆さんからいただいた。「まちむら交流きこう」の吉岡先生の指導もあり、負の部分はあまり指摘されなかったが、これから実践していく中で必要なこと、特に愛南町のポリシーの明確化、自分たちにふさわしい交流のあり方を理解し、身の丈にあつた実践を目指したGTの推進を教えられた。

愛南町は地形的にも、県内でも孤立（？）した「いなか」ではあるが、人としての温かみは一番あると自負している。他地域の皆さんとの交流が、実践していく会員の楽しみとなり、仲間が増え、GTのキーステーションの設置も目指し、少しでも愛南町のPRに役立てれば会員一同の本望である。